

令和2年2月末現在における運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況

- 1 本資料は、千葉県内で発生した安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が業務中又は通勤中に関係した人身事故を抽出・分析したものです。物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含まれていません。
- 2 本資料には、他県の安管事業所の従業員が起こした事故の数値が含まれていますが、本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含まれていません。

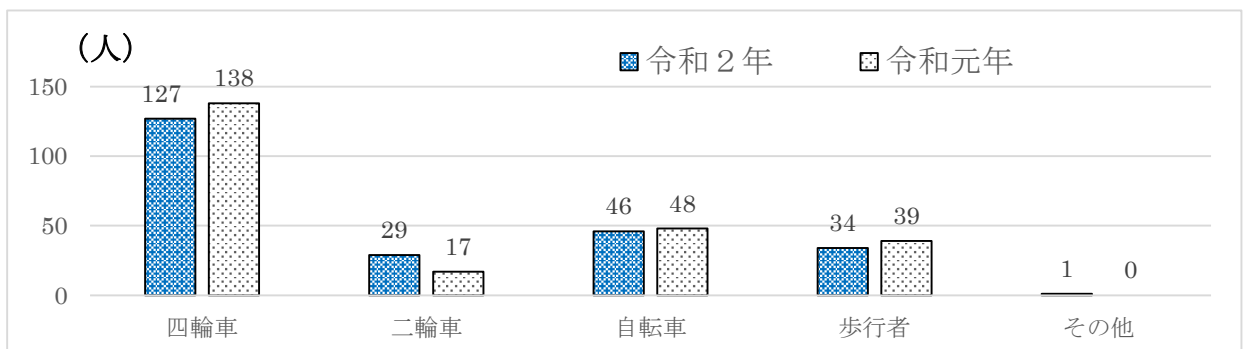
1 県内の発生状況

	2月中				累 計				
	令和2年	令和元年	増減数	増減率	令和元年	平成30年	増減数	増減率	
発生件数	101	96	5	5.2	195	197	-2	-1.0	
昼	日の出1時間後	6	12	-6	-50.0	27	24	3	12.5
	その他昼	54	51	3	5.9	85	99	-14	-14.1
	日の入1時間前	4	4	0	0.0	5	9	-4	-44.4
	昼計	64	67	-3	-4.5	117	132	-15	-11.4
夜	日の入1時間後	8	8	0	0.0	16	20	-4	-20.0
	その他夜	25	17	8	47.1	47	35	12	34.3
	日の出1時間前	4	4	0	0.0	15	10	5	50.0
	夜計	37	29	8	27.6	78	65	13	20.0
死者数	0	1	-1	-100.0	2	3	-1	-33.3	
負傷者数	129	109	20	18.3	235	239	-4	-1.7	
重傷者数	15	7	8	114.3	26	14	12	85.7	
軽傷者数	114	102	12	11.8	209	225	-16	-7.1	

概略

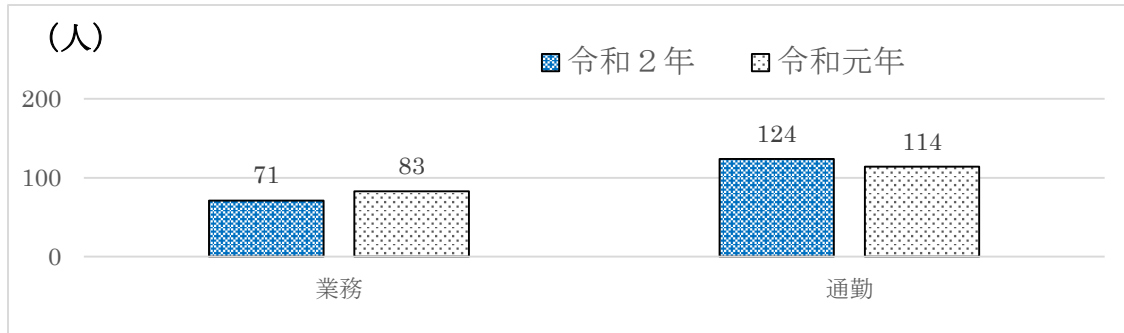
2月中における安管選任事業所従業員に係る交通事故は昨年同期に比べ発生件数、死傷者数ともにわずかに減少しましたが、減少率は鈍ってきており、重傷者数が昨年同期に比べ85.7パーセント増加するなど厳しい情勢が続いています。

2 死傷者の状態別



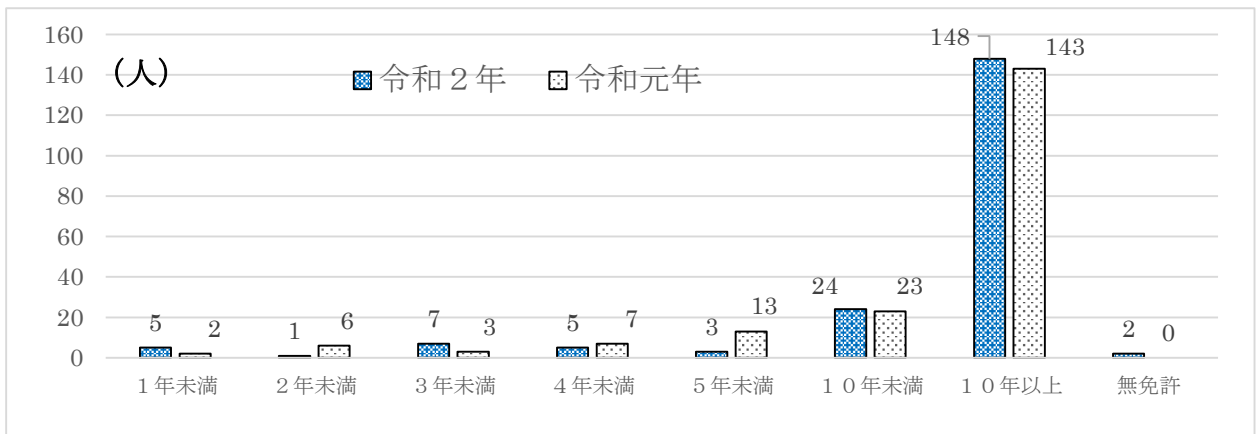
死傷者の状態別では、四輪車乗車中が最も多く127人（53.6%、前年比-11人）、次いで自転車の46人（19.4%、前年比-2人）です。歩行者は34人（14.4%、前年比-5人）で、死者（2人）は歩行者と自転車のみで発生していますので歩行者と自転車保護の徹底をお願いします。

3 第1当事者の運行目的



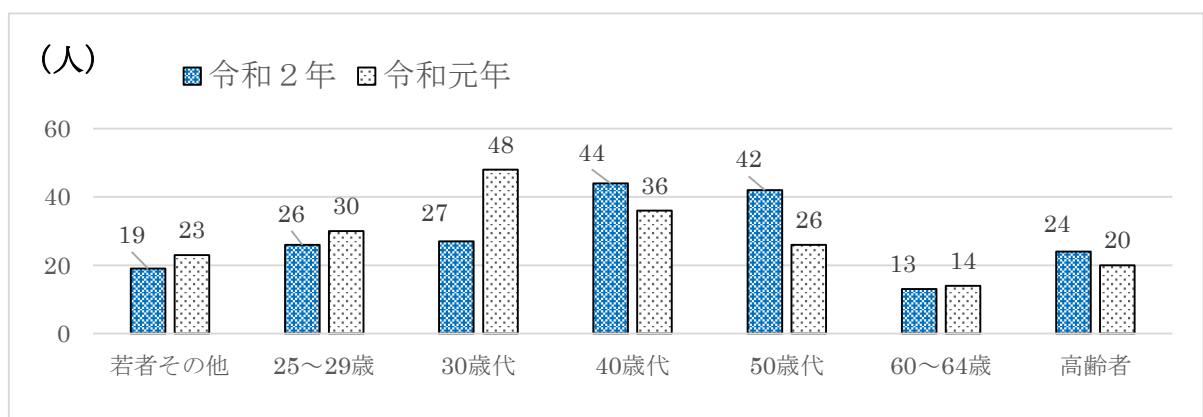
第1当事者の運行目的は、通勤途中が124人(63.6%、前年比+10人)、業務中が71人(36.4%、同-12人)と通勤途中の事故が増加しています。余裕を持った出勤と帰宅時は一層注意力を高めた運転をすると共に、見通しが悪い交差点が多い裏通りは避けるなど、安全な通勤経路を選ぶことが大切です。

4 第1当事者の免許経験年数



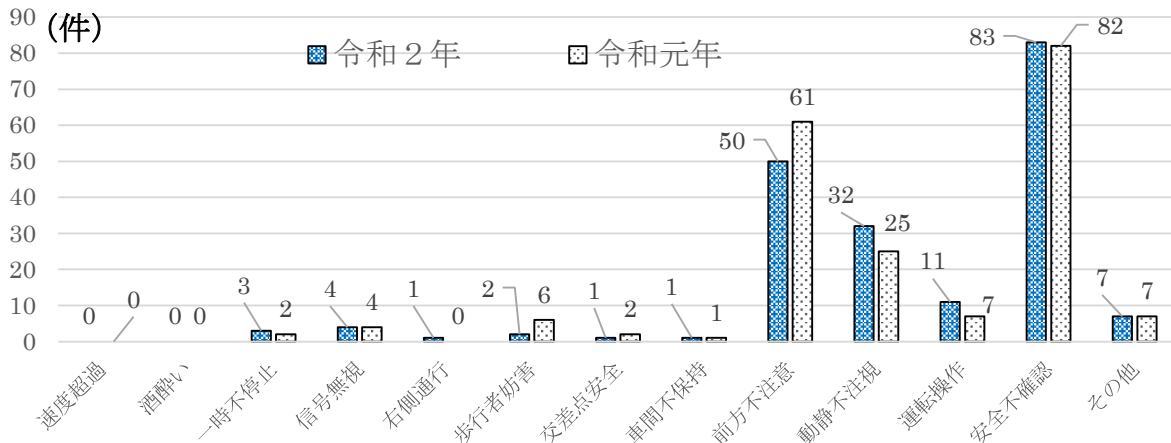
第1当事者の免許取得経過年数別では、経過年数10年以上の者が148人(75.9%、前年比+5人)と最も多く、次いで5年以上10年未満の者が24人(12.3%、同+1人)でした。1年未満から5年未満の者の合計は21人(10.8%、同-10人)でした。運転経験の少ない従業員に対する安全教育はもとより、ベテラン従業員に対してもきめ細かい安全教育が必要です。

5 第1当事者の年齢層



第1当事者は40歳代44人(22.6%)、50歳代42人(21.5%)の比率が高くなっています。高齢者(65歳以上)は24人(12.3%)と構成率は5位ですが、雇用の絶対数から考えれば、高齢者層が第1当事者になる比率は高いと言えます。

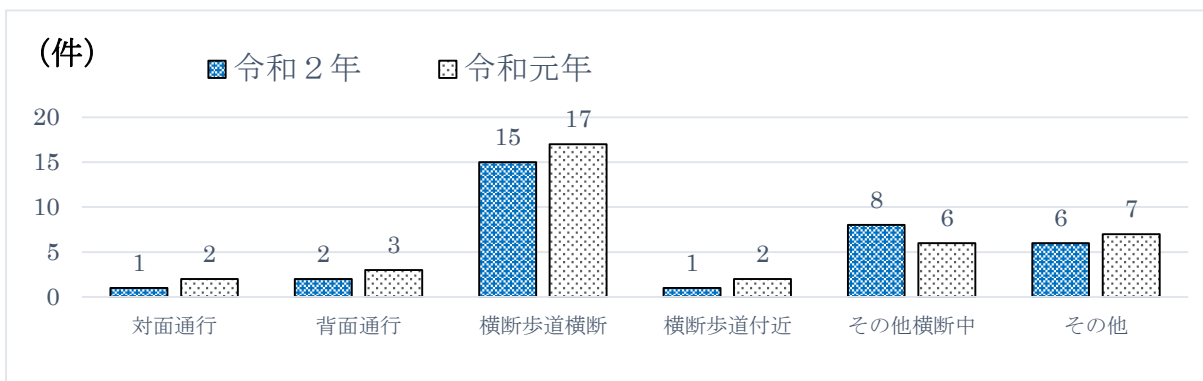
6 第1当事者の違反・原因別



事故原因は、前方不注意、動静不注意、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が計176件で事故原因の90.3%を占めています。

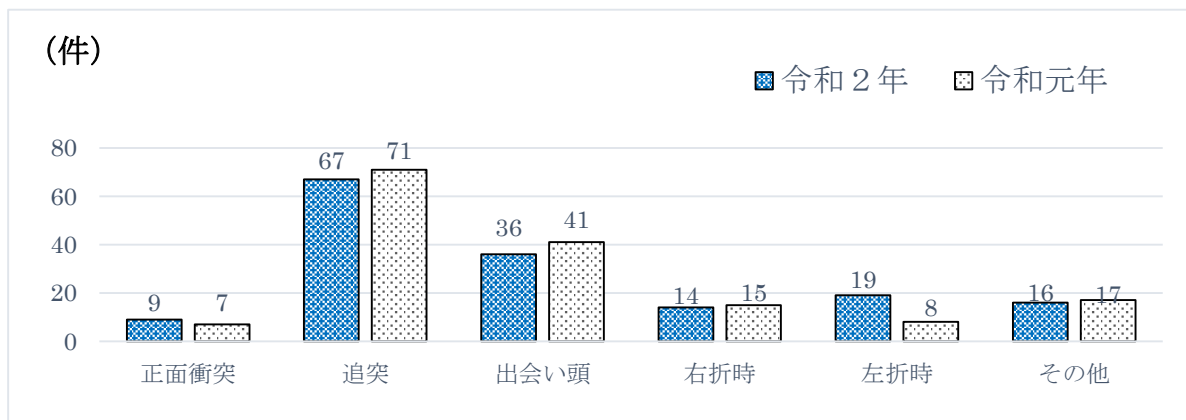
7 事故類型

(1) 人対車両 (計33件)



人対車両では横断歩道横断中の事故が15件（前年比-2件）と最も多くなっており、これを含めた横断中（横断歩道及びその付近、その他横断中）の事故は計24件で、人対車両の事故の72.7%を占めています。人対車両の事故は死亡事故に発展する確率が高いので、ゼブラストップ運動（横断歩道における歩行者優先）の推進をお願いします。

(2) 車両相互 (計161件)



追突の67件（全事故の34.4%、前年比-4件）が最も多く、次いで多いのが出会い頭の36件（全事故の18.5%、同-5件）です。出会い頭事故は重大事故に発展する可能性が高いので、見通しの悪い交差点における徐行・停止と左右の安全確認の徹底をお願いします。

(3) 車両単独 (1件)

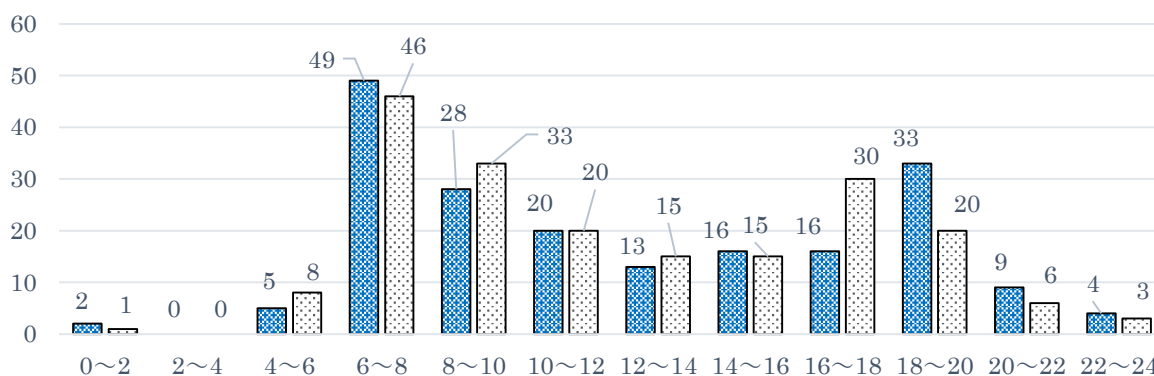
(件) ■ 令和2年 □ 令和元年



2月中の車両単独事故は1件で、昨年同期と同数です。

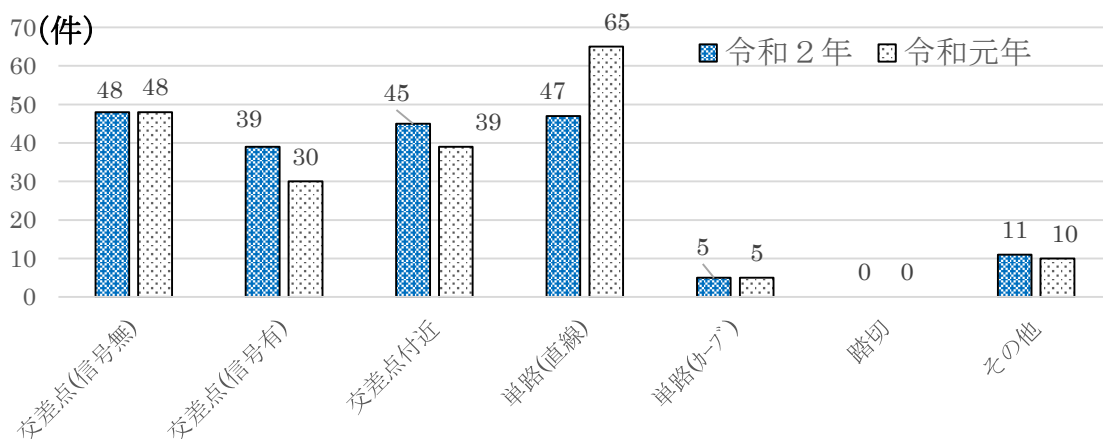
8 時間帯別

(件) ■ 令和2年 □ 令和元年



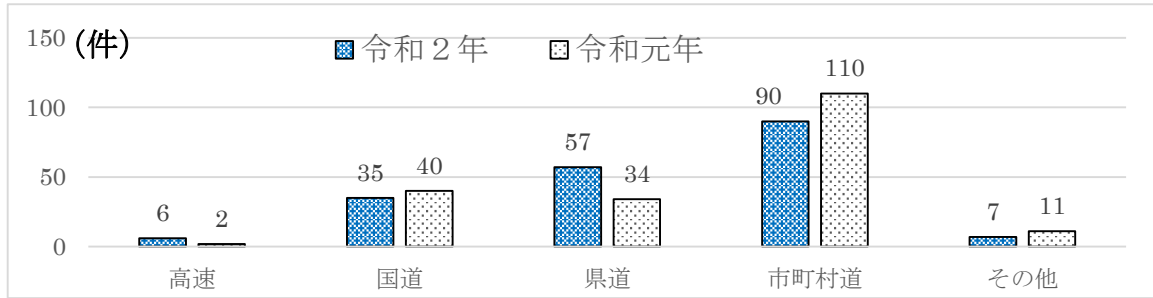
時間帯別で最も多いのは、6時から8時までの49件（25.1%、前年比+3件）で、次に18時から20時までの33件（16.9%同+13件）でした。6時から10時までの時間帯に77件、39.5%、また、16時から20時までの時間帯に49件、25.1%の事故が発生しています。朝夕のラッシュ時に事故が集中していますので、朝のラッシュ時は時間的な余裕を持った出勤や出発を心がけると共に、夕方のラッシュ時は疲れで注意力が低下しないよう、気を引き締めて運転してください。

9 道路形状別



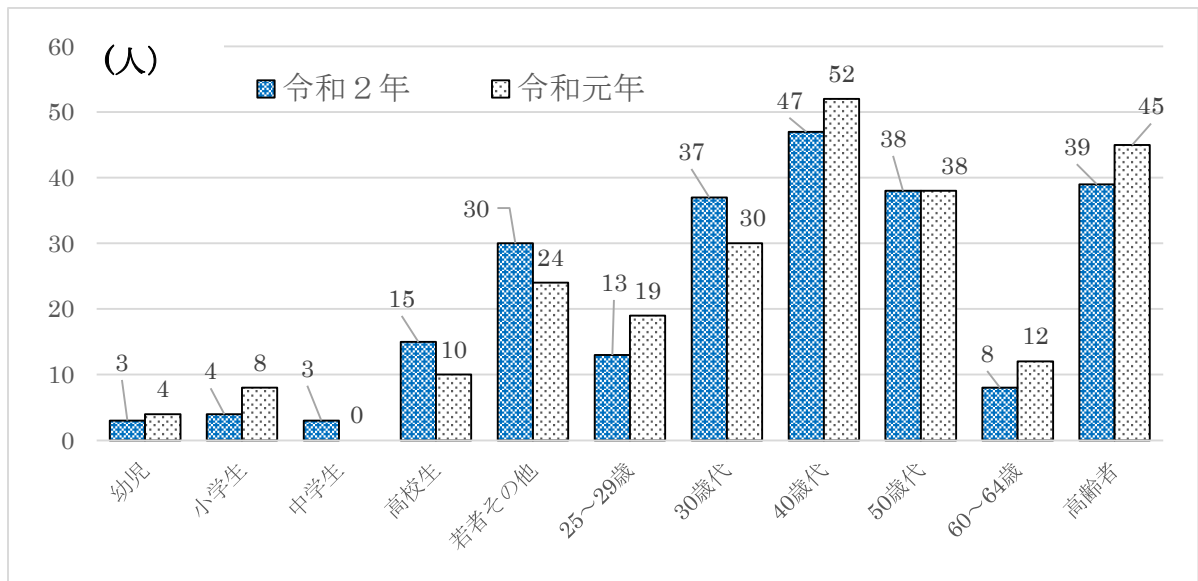
道路形状別では、交差点及び交差点付近の事故が合わせて132件（67.7%、前年比+15件）で、7割近くの事故が交差点及び交差点付近で発生しています。単路（直線）の事故は47件（24.1%、同-18件）と高い比率を占めていますが、追突事故（事故形態の34.4%）の多くが単路（直線）で発生しているためと考えられます。

10 道路別



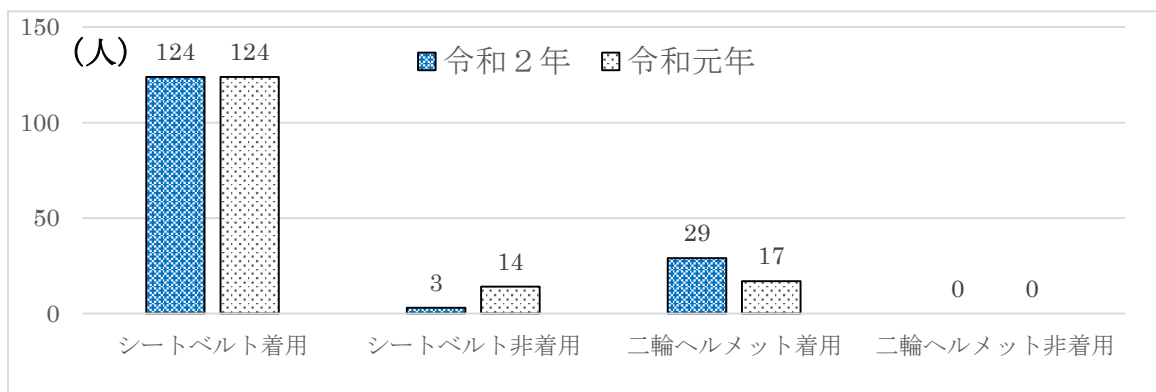
道路別では、市町村道が最も多く90件(46.2%、前年比-20件)、次いで県道が57件(29.2%、同+23件)、国道が35件(18.0%、同-5件)でした。

11 死傷者の年齢層別



死傷者の年齢層で多かったのは、40歳代の47人(19.8%、前年比-5人)、次いで高齢者の39人(16.5%、前年比-6人)ですが、高齢者の内2人が死亡しています。他の年齢層で死者は出ていませんので、死者の年齢層は高齢者に偏っていると言えます。

12 シートベルト・ヘルメット着用状況



四輪車の死傷者の内、シートベルトを着用していたのは124人(97.6%)、非着用は3人(2.4%)でした。二輪車の死傷者の内、ヘルメットを着用していたのは29人(100%)、非着用はいませんでした。